

質問

ふるさと納税 今期の実績は

町長

1万人以上の方から約3億円の寄付



石原 武志 議員

一般質問

質問 順調に右肩上がりとなっているふるさと納税、その状況をどう感じ取っているか。

町長 平成20年度6名51万円に始まり29年度約3億円となった。

総額で5億8,600万円だ。貴重な自主財源で魅力ある地域づくりに使いたい。

質問 順調に伸びている主な要因は。

町長 多くの特産品があることや情報発信できていることが要因と考える。

質問 返礼品について、商業振興策の一つとしてコンテストなどを開催し、商品開発をする考えは。

町長 現在特に考えていないが、関連事業者とは研修会を開催している。本町を選択して頂くための情報交換等していく。

ある。窓口は活動内容でわかれている。

質問 寄付の使途を地域活性化事業と子育て・教育に絞って募集しては。

町長 目的・金額を設定し募集するクラウドファンディング方式も検討中だ。

町内のNPO法人について

質問 地域振興や教育を活動目標にしているNPO法人は町内にいくつあるのか。その担当窓口は。

町長 行政の下請け化が進んではいけないと思うが必要性が生じた場合業務委託の相手として参加頂くよう対応したい。特に小さな拠点づくり事業を進める中で連携を推進できるよう期待する。

総務課長 奥出雲青山クラブ、ふきのとう、奥出雲布勢の郷、ただも、の4団体が

質問 布勢の郷は佐白地区交流拠点施設の管理運営をしているが、発足は町の要

請と指導でできた民間組織だ。同様の組織が各地域に発足して欲しいが、その足掛かりや後押し役目は行政の一役によるものと思う。前者の例に習い組織づくりや、支援活動として有識者の多い全国各地の奥出雲会に働

きかけなどができないか。

町長 法人格を持つNPO法人は行政での事務執行を補完できる存在と認識する。組織づくりをするうえで各地の奥出雲会にも働きかけを行いたい。



NPO法人奥出雲布勢の郷が管理する長者の湯